

あれから40年

「これからも伝え継ぐために」

昭和47年7月豪雨災害



豊 田 市

目 次

発刊にあたって	
当時の気象	4
被災の状況	
1 犠牲者	5
2 重傷者	5
3 家屋の被害	6
4 道路・河川の被害	7
5 農地・農業用施設の被害	12
6 農作物・水稲の被害	13
7 山林の被害	15
8 商工業関係の被害	17
9 文教・社会教育施設の被害	18
記録写真	
被害状況	22
新聞報道	30
搜索活動	31
復旧活動	35
救援活動	37
救護活動	38
防疫活動	39
電気・電話の復旧	40
国・県の被害状況視察	41
陸上自衛隊・愛知県警機動隊撤収式	42
犠牲者合同慰霊祭	43
災害文集	
「災害」 道慈小学校 5年 永井 保徳	46
「集中豪雨」 福原小学校 6年 三宅 浩幸	48
「集中豪雨」 清原小学校 5年 久名木浩志	49
「集中豪雨」 本城小学校 5年 酒井 正治	50
「水は悪魔」 小原中学校 2年 加藤由美子	51
「47. 7 豪雨」 小原中学校 2年 成瀬富貴子	52
「激甚災害に憶う」 小原村助役 小野田 薫	54
資料編	
村災害復旧費の推移	58
県工事	59
47年災 公共土木施設災害復旧事業一覧表	60
小原村集落整備調書	61
治山事業費実績一覧表	62
災害派遣自衛隊活動状況	63
各地による救援活動状況	64
昭和47年7月豪雨災害3か年復興記録	65

発刊にあたって

昭和47年7月豪雨災害から40年を迎え、ここに記念誌を発刊するにあたり御挨拶申し上げます。

この災害を顧みますと、昭和47年7月12日夜半から13日の未明にかけての豪雨により、旧小原村の住民32名の尊い人命が奪われました。また、人々の財産に壊滅的な被害を与え、一夜にしてまちを荒廃させてしまいました。

その後、深い悲しみを乗り越えて、地域の方々の深い郷土愛と強い団結力を結集させるとともに、全国からの温かい支援を受けて復興を成し遂げました。

しかし、時の流れの中で記憶が薄れ、豪雨災害を知らない人も多くなってきており、この教訓を忘れることなく後世に伝えていくことが、私たちの責務であると考えます。

昨年3月11日に発生した東日本大震災による惨状は記憶に新しく、一日も早い復興を心から願わずにはられません。

「災害は忘れた頃にやってくる」といいます。この地域も東海地震、東南海地震の発生が心配されます。そのため、日頃から防災に対する知識を深めるとともに、いざというときに備え、「自分たちの住む地域は自分たちで守る」心構えが必要です。

この記念誌を過去の記録を留めるためのきっかけとし、二度とあのような災害を繰り返さないために、防災に関する施策を積極的に展開し、安全で安心な住みよいまちづくりを推進してまいります。

平成24年7月14日

豊田市長 太田稔彦



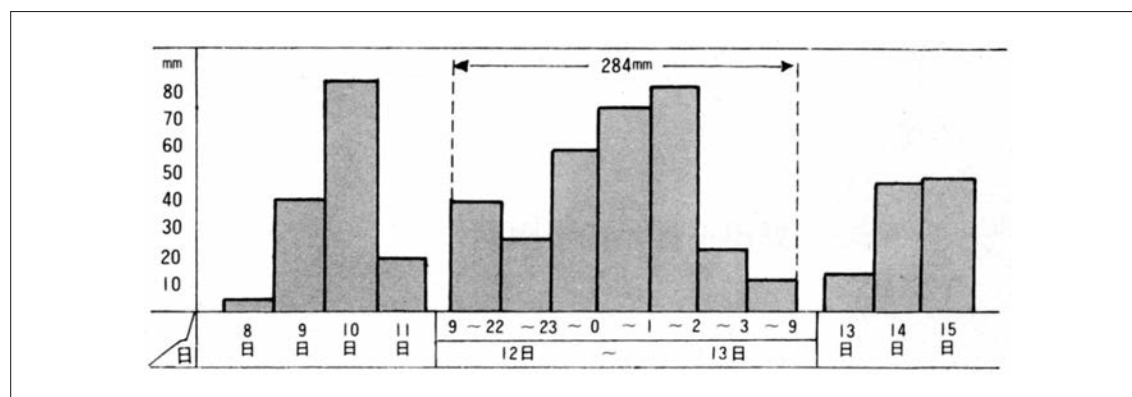
当時の気象

昭和47年7月の梅雨は、いつにない長雨で、土地も河川も水の飽和状態であった。こうした状況で、日本海沖にあった梅雨前線は7月9日午前、次第に南下を始め、朝鮮半島から北陸地方沿岸を通して東北地方を横切り、10日には本州南岸に停滞した。11日午前には台風7号の影響もあって降雨が強くなったが午後になって、前線が一時南下傾向を示して雨は小降りとなる。後から考えれば文字どおり嵐の前の静けさだった。

前線は、12日午後から南高北低の異常な気圧配置を背景に不気味な北上を始め、東海地方に停滞した。しかも、前線の活動は激しくなり、20～30km程度の狭い幅をもった細長い線上の降雨域が、すっぽりとこの美濃三河高原をおおった。

12日深夜から13日未明にかけては、雨というより水のかたまり（当時は、「バケツで水をぶちまけるようだった。」と表現された。）のような降雨であり、すさまじい豪雨であった。日雨量284mm（7月12日9時～13日9時）、時間雨量は77mm（13日1時～2時）と50年ぶりに最高記録を示した。

降雨量調べ



被災の状況

豪雨は、あっというまに人命、家屋、道路、河川、農地、森林を呑み込んでいった。そして、32名もの尊い人命を奪った。昨日まで共に楽しく暮らしてきた親、兄弟、子ども、友人が、土砂や濁流、倒壊した家屋によって帰らぬ人となった。

命はとりとめたものの、大けがを負った人も少なくなかった。重傷者32名、軽傷者となると数えきれないくらいで、むしろ無傷の人の方が少ないくらいであった。死者、けが人の多さだけをみても、昭和47年7月豪雨災害は、小原における有史に残る災害といえる。

1 犠牲者

町 名	氏 名	年 齢	町 名	氏 名	年 齢
大 平	永井 すえ	91	大 坂	千賀 政志	54
〃	永井 ふさ	62	〃	千賀 かな子	46
〃	永井 孝徳	14	鍛冶屋敷	華本 八重喜	60
〃	永井 明美	8	〃	華本 顕一	38
三ツ久保	梅村 善松	62	〃	華本 英子	11
〃	梅村 てる子	59	〃	華本 広一	5
沢 田	山田 邦夫	56	市 場	能見 忠男	61
北 篠 平	小川 豊	71	西 細 田	土屋 好美	24
〃	小川 きくの	73	〃	土屋 三子	23
下 仁 木	増岡 光明	65	平 畑	大内 勇夫	51
〃	増岡 さかの	64	〃	山田 武	50
〃	山内 フキエ	65	〃	成瀬 タズヘ	62
〃	牛田 すへの	57	〃	山内 洋	38
〃	牛田 保治	37	〃	山内 吉美	13
〃	大嶋 よ志	76	〃	成瀬 泰隆	17
〃	大嶋 いさ子	52	〃	外狩 幸枝	40

2 重傷者

町 名	氏 名	年 齢	町 名	氏 名	年 齢
大 平	永井 保徳	10	下 仁 木	牛田 憲候	8
〃	永井 国枝	44	〃	牛田 幸子	33
荷 掛	藤本 ユキ	44	〃	大嶋 保昭	22
乙 ケ 林	山内 サダ子	44	〃	牛田 やよい	57
三ツ久保	水野 ふみゑ	65	〃	大嶋 義幸	50
大 洞	近藤 米子	43	〃	牛田 一三	63
〃	近藤 ぐり	71	〃	山内 要三	68
喜 佐 平	藤本 正	56	〃	牛田 与作	79
北 篠 平	加藤 静夫	67	鍛冶屋敷	華本 一子	34
川 見	大林 久五	67	李	加藤 タカノ	67
〃	大林 ふでを	62	川 下	成瀬 靖彦	9
東 郷	三宅 次郎	50	平 畑	成瀬 富貴子	13
大ケ蔵連	松井 兼作	79	〃	成瀬 光子	17
〃	松井 きぬ子	58	〃	成瀬 幸代	38
松 名	板倉 宏	41	百 月	成瀬 鈴市	48
〃	板倉 千津子	44	〃	成瀬 とも子	22

3 家屋の被害

記録的な集中豪雨は多くの命を奪い、山くずれ・崖くずれの発生による家屋の倒壊、埋没・河川の氾濫、道路の寸断と空前の被害となった。

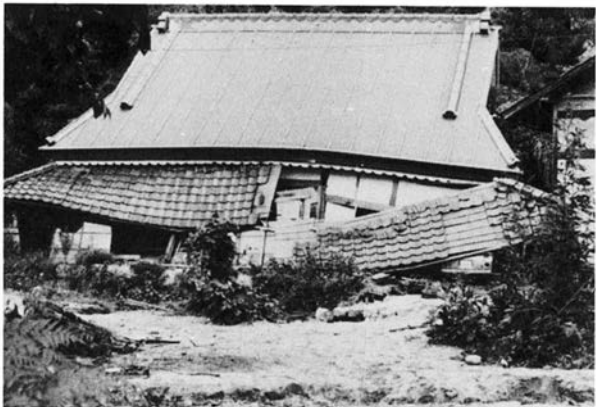
家屋被害の状況は土質、地形によって異なるが、北篠平では川が流砂でダムのようにせき止められ、一気にくずれて被害を大きくし、大洞は水神池の決壊が被害を大きくした。

家屋被害の特徴は、小川と山津波が結びついておきたところにあり、裏山の崩壊・崖くずれという、地すべりが大きな被害の原因と思われる。家屋の被害は次のとおりである。

住家															非住家	
全壊			半壊			一部破損			床上浸水(土砂流入)			床下浸水			全壊	半壊
棟	世帯	人	棟	世帯	人	棟	世帯	人	棟	世帯	人	棟	世帯	人	棟	棟
127	117	437	145	141	606	159	148	421	169	165	674	419	419	1809	215	73



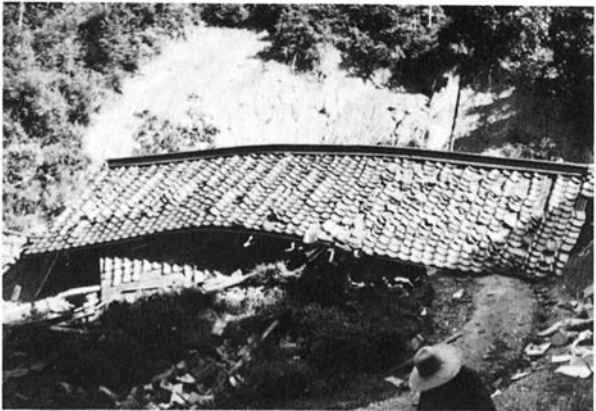
土砂に押しつぶされ、屋敷下へ押し流された。(栄区 下仁木)



裏山が崩壊して直撃、屋根は引きちぎられ家はへし曲げられてしまった。(東区 西丹波)



右前山が崩壊して、大木とともに土砂が直撃した。(道慈区 ミツ久保)



裏山が崩壊して、全壊となった。(中区 松名)

4 道路・河川の被害

(1)道路の被害

種 類	路 線 名	被害 か所	被 害 延 長	被 害 額
主 要 地 方 道	豊田瑞浪線	37	2,430 ^m	78,288 ^{千円}
	豊田明智線	26	2,049	91,784
県 道	平畑土岐線	78	3,382	126,812
	沢田御作線	24	1,972	126,904
	大平折平線	3	97	5,611
	下切土岐線	28	795	65,961
	陶・稲武線	26	1,232	68,939
	島崎豊田線	17	1,338	35,252
	上仁木明智線	27	936	69,356
村 道	北篠平多治見 線ほか51路線	295	12,629	571,199
林 道	林道築平川下 線ほか15路線	55	2,656	65,104

道路は、主要地方道をはじめとして、県道・村道・林道・農道のことがとくが大きな被害を受けた。

ほとんどの道路は、崖くずれ・土砂の流入・河川の決壊による流失、あるいは、道路そのものが河川によって寸断されるなど、道路としての機能をまったく失った状態になった。特に県道平畑土岐線の樽俣、西丹波及び沢田御作線の北篠平はその被害が大きかった。

主要地方道
豊田瑞浪線 西区 北篠平 駒ヶ峯付近

主要地方道として最も交通量の多いところであるが、崖くずれや、雨水と土でどろ沼の状態になった。



県道 平畑土岐線 東区 西丹波

市場から笹戸をへて足助方面に通ずる道路であるが、西丹波では川と道路の区別がないくらいになってしまった。

県道 沢田御作線

道路は流失して、川になってしまった。
(この川の下流が藤岡の御作で、大きな被害を出している。)



県道 沢田御作線

道路が犬伏川の水の氾濫で、削りとられた。



村道 永太郎岩下線 中区 松名 いおと坂

雨水が道路上を走り、写真のように各所がずたずたに陥没し、通行不能になった。また、樹木が倒れて流出し、道路の識別もつかない状態になった。



村道 喜佐平瑞浪線 ミツ久保から前洞への道 道慈区 ミツ久保

道路の路肩がくずれ、手前の田へ土手の土と樹木が流れこみ、田は完全につぶれ、荒地のようになった。土が削り取られたために、舗装の底が見えている。長さ約50m。

(2)河川の被害

種 別	河 川 名	被害 か所	被 延 害 長 m	被 害 額 千円	備 考
一級河川	田 代 川	12	6,922	1,048,220	一定災工事 該当河川
	犬 伏 川	3	1,629	306,138	〃
	大 平 川	1	3,995	433,014	〃
	矢 作 川	1	50	3,900	
砂防河川	寺 平 川 ほか3本	10	3,966	401,030	一定災工事 寺平川ほか2河川 関連工事 大平川
一般河川	千 洗 川 ほか40本	105	29,430	2,379,648	一定災工事 千洗川ほか9河川 関連工事 荷掛川ほか2河川

河川による被害は甚大で、一級河川から、小川に至るまで、ことごとく氾濫し、堤防の決壊・道路の陥没・家屋の倒壊・農作物の流失等をまねいた。家屋の倒壊・流失等によって尊い人命がうばわれた。

河川は、豪雨のために広くなり、2～3 mの川でも20mぐらいの川幅になった。

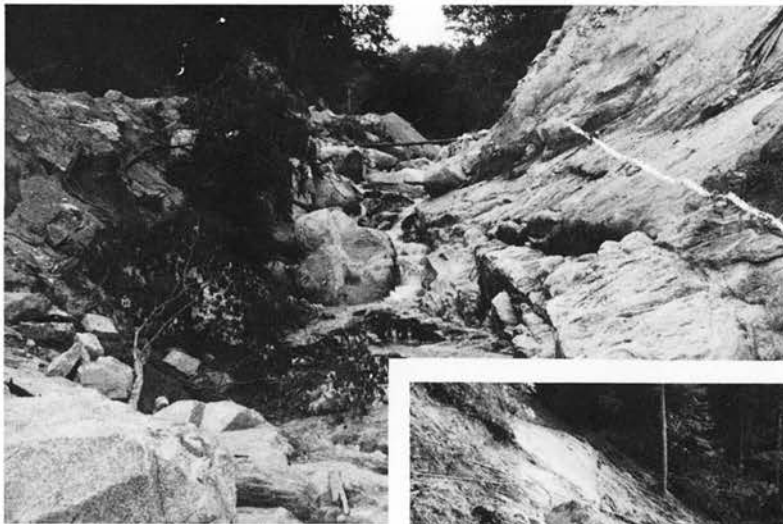


一級河川 犬伏川 西区 北篠平 蔵屋敷付近

川幅10mぐらいの川が100m以上の大河を思わせる川に変わった。田畑をつぶし、樹木を流しこみ、そして、水が引いたあとは、元の川がどこか見当がつかない状態になった。川というより荒野の姿である。

樽俣川 矢作区 樽俣

豪雨前の川幅は1 mぐらいの川であったが、上流より押し流されてきた大石小石群で埋め尽くされてしまった。



一級河川 李川 大草区 李

川幅は2 mぐらいだったのが水害で15m~20mぐらいになった。川底の砂がなくなって岩盤があらわれている。



一級河川 李川 大草区 李

砂や両岸の土がはぎとられて、無気味な川となった。以前の清らかな、美しい川の面影は全くみられない。



道慈区 大洞

集中豪雨の13日は持ちこたえた大洞の水神池が、14日突然決壊し、濁流となって、瞬時に田畑を押しつぶした。溜池より田畑への用水路程度だった側溝が大河を思わせる状態になった。

(3)橋梁の被害

種 類	名 称	被害 か所	被 害 延 長	被 害 額	備 考
主要地方道	豊田瑞浪線 ほか1路線	か所 3	m 51	千円 39,036	
県 道	上仁木明智線 ほか3路線	5	61	36,742	
村 道	喜佐平瑞浪線 ほか8路線	12	189	44,207	一部 取付道路含む
林 道	林道乙ヶ林線 ほか2路線	3	217	8,334	取付道路含む

河川の被害にともなって橋梁の被害も大きかった。

橋梁の被害の大部分は、河川の増水によるが、崖くずれ、土砂くずれ等によって押し流されてきた流木、土砂によるものが多かった。

一級河川 田代川 中区 永太郎 陣出橋

橋のまわりの道路が、増水によって洗い流され橋の用をなさなくなった。



一級河川 田代川 中区 大倉

橋台のみ残して橋は全く姿を消してしまった。

一級河川 李川 大草区 李 川上橋

李から百月への道路（村道 大草足助線）が橋梁の流失によって断たれた。橋台の一部は残っているが、コンクリートの橋は流されてしまった。



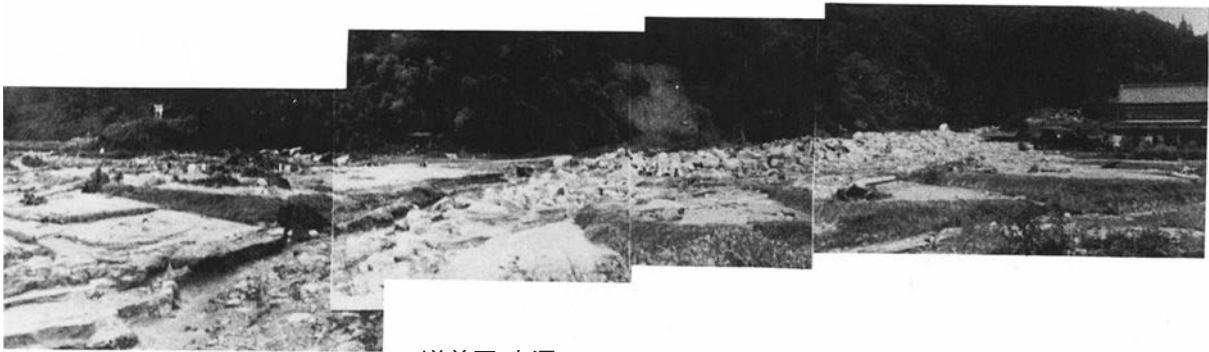
5 農地・農業用施設の被害

田代川・犬伏川及びその支流を始め、河川という河川が氾濫して付近の田畑は流失、陥没、欠損等により多くの被害をだした。このため、農道・水路・頭首工等の被害も含めて被害1千か所、被害金額10億円を越す巨額にのぼった。

(1)農地の被害 被害か所数 440 被害額 366,104千円

(2)農業用施設の被害

種 別	た め 池	橋 梁	頭 首 工	道 路	水 路	合 計	
						被害か所数	被 害 額
被害か所	2	50	28	126	328	534	637,338 ^{千円}



道慈区 大洞

大洞水神池の決壊により岩石の荒原となった農地



矢作区 樽俣

土砂の流入により川原と化した宮前の農地

6 農作物・水稲の被害

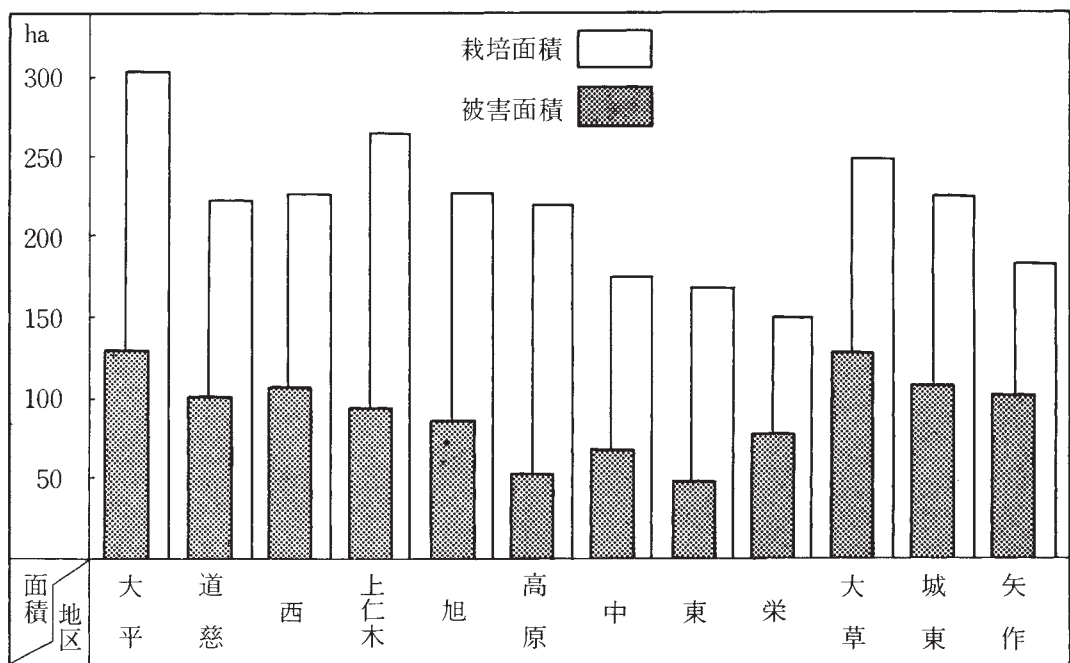
(1)農作物の被害

桑園・野菜畑は壊滅状態となった。

被害種別	栽培面積 (ha)	被害面積 (ha)	被害額 (千円)	被害率 (%)
水稲	2618.18	1059.05	70,616	40.4
野菜	25.00	23.00	7,460	95.0
桑園	25.20	25.00	5,904	100.0
牧草地	5.00	3.00	750	60.0
飼料作物	6.00	5.00	1,250	83.0

(2)水稲の地区別被害状況

いたる所の大小の沢から土石砂が流出し、所によっては大木もろとも押し流し、水田は跡形もなく埋没した。



大草区 李

小さな沢が氾濫して水田は川原のようになった。



東区 岩下 沢から立木もろとも土石砂が流出して、水田は埋没した。

地区	農家戸数	作付面積	被害面積	被害率
大平	106	303.82ha	133.13ha	43.8%
道慈	96	219.38	100.51	45.8
西	88	220.81	112.18	50.8
高原	67	218.92	47.32	21.6
中	68	188.27	59.13	31.4
東	67	170.89	40.34	23.6
栄	52	155.50	65.02	41.8
上仁木	87	263.39	85.58	32.4
旭	69	219.69	74.30	33.8
大草	99	248.06	125.56	50.6
城東	88	230.95	105.75	45.7
矢作	70	178.50	97.68	54.7
計	966	2618.18	1059.05	40.4

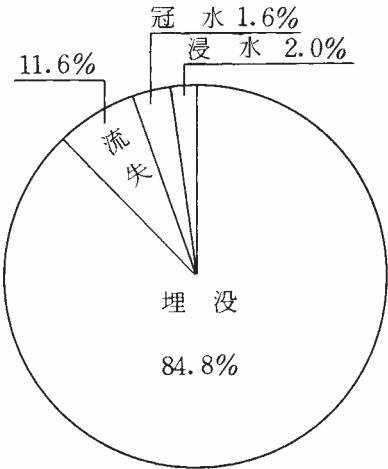


道慈区 大洞 決壊した水神池の濁流により、水田はさながら石の川原になった。

被害原因

埋没による水稻の被害が最も多かったのも、今回の災害の特徴である。

	冠水	浸水	流出	埋没
0～29%	109.1a	58.0a	303.7a	2614.3a
30～49%	13.1	39.4	95.5	1299.6
50～69%	17.4	37.3	116.3	1295.1
70～89%	6.0	6.5	85.4	751.3
90～100%	16.7	54.7	625.4	3025.7
計	162.3	215.9	1226.3	8986.0
同上 %	1.6%	2.0%	11.6%	84.8%



西区 北篠平 犬伏川の氾濫により田園は大河に変わった。

7 山林の被害



西区 喜佐平 豪雨によって崩壊した山林

(1)森林新生崩壊地

被害か所	4,774
被害面積	248.27ha
復旧費	1,867,231千円



道慈区 大洞 大洞川水神

(2)林 道

被害か所	58(25路線)
延長	5,485m
復旧費	109,660千円

(3)造 林 地

被害か所	2,779
被害面積	194.56ha
復旧費	71,123千円



矢作区 平畑 むきだしになった山はだ



崩壊によって倒されたひのき材

(5)林業用施設

貯木場	被害か所	3
	被害面積	53㎡
	被害額	830千円
木材倉庫	被害か所	4
	被害棟数	4棟
	被害額	2,620千円
加工機械	被害か所	6
	被害台数	6
	被害額	1,160千円
しいたけ	被害本数	約5,000本
原木	被害額	750千円

(4)林産物

苗畑	被害か所	3
	被害面積	0.3ha
	復旧費	770千円
素材流失	被害か所	4
	被害量	62㎡
	被害額	1,500千円
製品	被害か所	6
	被害量	30㎡
	被害額	900千円



20年生のひのき材が流された



道慈区 大洞 大洞水神池

8 商工業関係の被害

窯業・建設業・卸小売業・製造業・サービス業等商工会関係の工場・事務所・店舗等の被害も多く、特に、山すそや河川の付近のものが大被害をこうむり、被害金額も膨大なものになった。

被害か所数

業種別	区分 種類	居 宅			工 場			店 舗			施設 機械 器具	災害者数
		流失	全壊	半壊	流失	全壊	半壊	流失	全壊	半壊		
製造業(除窯業)		1	3	4	2	5	1				12	28
卸 小 売 業		1	4	5	1	2		1	1	3	12	30
サ ー ビ ス 業		2		2		1	1		1	1	24	32
窯 業				2	7	4	8				11	32
建 設 業					1	2	1		1		5	10
計		4	7	13	11	14	11	1	3	4	64	132



崩壊寸前の製材工場 栄区 下仁木



流失した陶土工場 西区 喜佐平

被害金額

(単位：千円)

区分 業種	付 属 家 屋	店 舗	工 業	商 品	原 材 料	機 械 器 具	施 設	道 橋 路 梁	車 輛	備 品	計
商 業	4,290	3,260	3,730	9,660	4,280	4,640	2,350	2,620	1,660	1,170	37,650
工 業	15,190	2,820	49,320	20,110	21,830	59,990	20,650	13,910	11,960	6,090	221,750
計	19,480	6,080	53,050	29,670	26,100	14,610	23,000	16,530	13,620	7,260	259,400

9 文教・社会教育施設の被害

福原小学校(昭和52年度廃校)

崩壊 運動場土手 延長 22m 高さ 8 m
校舎裏土手 3 か所
福原寮東裏山
建物 福原寮便所 全壊 ひさし半壊
被害金額 1,276千円



崩壊した福原小学校運動場土手



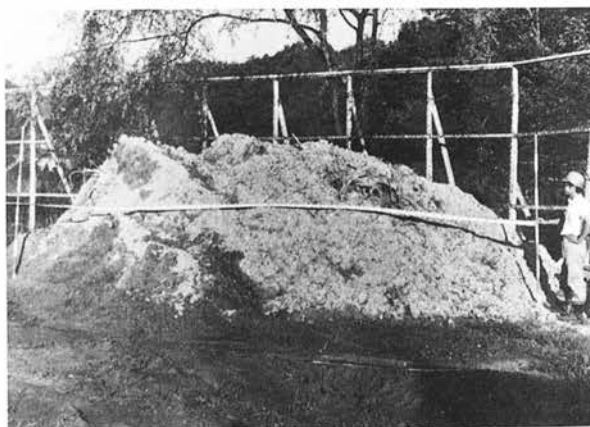
清原小学校給食室裏山の崩壊

清原小学校(昭和52年度廃校)

崩壊 給食室裏山 延長20m 高さ 3 m
運動場土手 延長80m 高さ 2 m
校門前土手 延長20m 高さ 2 m
建具・器具の破損
給食室裏壁 同全部 同建具
石油バーナー 4 基 滅菌器 1 基
被害金額 3,366千円

本城小学校

崩壊 給食室 職員住宅裏土手
運動場土手 運動場の排水管欠損
被害金額 713千円



運動場に運び出された排土の山 本城小学校

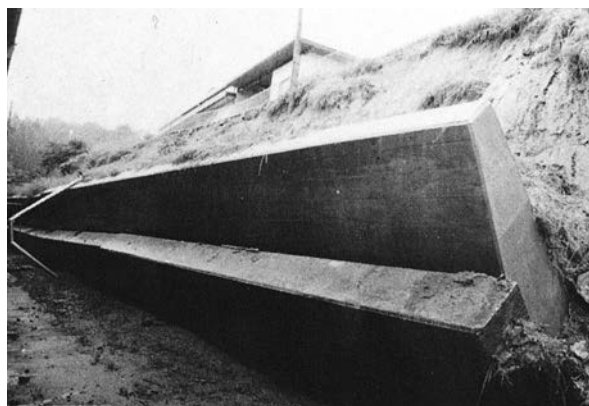
その他、小原中学校・道慈小学校・築平小学校（昭和52年度廃校）にも被害はあったが幸い軽微であった。

給食センター(平成22年度廃止)

崩壊 調理室 車庫等の背戸山
猿投農林高校小原分校裏擁壁
被害金額 6,083千円



はみだした村民運動広場の擁壁



給食センター土手擁壁倒壊

村民運動広場(現小原中部小学校)

崩壊 グラウンド西土手擁壁
観覧席土手
グラウンド北隅土手
被害金額 18,707千円



土台を残して全壊流失した大洞公民館

大洞公民館

木造平屋建 建坪 132.53㎡ 全壊流失
被害金額 8,035千円



全壊流失した東市野々公民館

東市野々公民館

木造平屋建 建坪 36.39㎡
被害金額 2,334千円



土台下を洗われた大ヶ蔵連公民館

大ヶ蔵連公民館

木造平屋建 建坪 93.29㎡
被害金額 5,524千円

記 録 写 真

被害状況



(大平)



(大平)



水神池決壊（大洞）



流出埋没した農地（大洞）



大平口付近（北篠平）



寺平口付近（北篠平）



蔵屋敷付近犬伏川の決壊（北篠平）



蔵屋敷付近県道（北篠平）



西部児童館付近県道（北篠平）



バス車庫付近（上仁木）



田代川の決壊（川見）



流出した農地と氾濫した東市野々川（東郷）



流出した土石と家屋廃材（下仁木）



倒壊した家屋（下仁木）



決壊した干洗川（大坂）



鱸城橋付近（市場）



樽俣川の氾濫（樽俣）



土砂崩れによる家屋全壊（平畑）

新聞報道



昭和47年7月13日 中日新聞・朝日新聞



紙面使用承認済

搜索活動





搜索活動（下仁木）



搜索活動（下仁木）



遺体搜索（下仁木）



遺体収容（下仁木）



小原村役場庁舎内



移動交番（役場庁舎前）

復旧活動



県道復旧（北篠平）



犬伏川（大坂）



活動を終え現場を移動（下仁木）



自衛隊の食事・休憩（小原中学校）

救 援 活 動



重傷者空輸搬送（村民運動広場・現小原中部小学校）



救援物資仕分作業（役場庁舎前駐車場）



救援物資空輸（村民運動広場・現小原中部小学校）

救 護 活 動



老人憩の家（永太郎）



応急手当処置

防疫活動



県防疫班



電気・電話の復旧



災害発生の一報を無線で村外に知らせた中部電力豊田配電小原出張所の車両（とよたはいでん9）



13日未明から停電と電話の不通が発生していたが、電気は17日夜に全戸配電復旧し、電話は21日に94%まで回復

国・県の被害状況視察



桑原県知事 被害状況現地視察 新下仁木橋付近 7月14日来村（下仁木）



被害状況説明 右：高見村長 左：木村建設大臣 7月15日来村 役場庁舎内

陸上自衛隊・愛知県警機動隊撤収式

(小原村藤岡村合同による)



陸上自衛隊撤収式（7月28日）



県警機動隊撤収式（7月30日）

犠牲者合同慰霊祭

(昭和47年 8月10日 小原中学校)



災害文集



「災 害」

道慈小学校 5年 永井 保徳

①災害を受けたとき

ぼくは、あの夜いつもと同じところに寝た。

目がさめたら、どろの中に頭をつっこんでいた。

「なんだ。」と思って頭をひっこぬいてすわっていた。雨が降っていて川の水の音がものすごかった。どうなったのだろうと思ったが、まっくらで何が何だかわからなかった。歩こうと思っても、頭がふらふらして歩けなかった。「なんか頭がへんだな。」と思ってさわってみたら、頭の皮がべろんとめくれてきた。

ぼくが「たすけてー、たすけてー。」と叫んだら、どこかでだれかも「たすけてー、たすけてー。」と言っていた。

ぼくが「だれだー。」と言ったら、だれかが、何回もこたえた。だけどわからなかった。そして、だれも来てくれないので、だんだん恐ろしくなって泣き出した。

「母ちゃん、母ちゃん。たすけてー。」と泣いていたが、きりがないのでやめた。そして、雨の中にすわっていて、とても寒かった。

それから、どのくらいたったのか、寝てしまったのか、かい中電燈の光が見えたので、ぼくは、「たすけてー。」と叫んだ。だれかも「たすけてー。」と言った。「だれだー。どこにおるー。」と言って、ひろ君のお父さんがだれかの方へ行行った。ぼくの方へも知らない人が来てくれた。後でわかったけど、そのだれかは、母ちゃんだった。ひろ君のお父さんが「スコップを持って来い。」と叫んだ。

ぼくは、だかれるようにして、となりの家へ行行った。どろのパジャマをぬぎ、体を水で洗い、かわいた着物を着て、ふとんをしいてもらって寝ていた。そのとき、とても腕が痛く、のどもかわいてきた。「水が飲みたい。」と言ったら、水を少しずつくれた。ぼくが来て少したったら、母ちゃんが来た。母ちゃんは、「こしが痛い。」と言っていた。近所の人も集まって来た。それから寝たのか、すぐに朝になった。皆が相談して、ぼくたちは、病院へ行くことになった。

はじめに、戸板に乗って、ダンボール箱をかぶって、柿野まで運んでもらった。雨がダンボールにあたって、「ポツ、ポツ」音がしていたが、何も見えなかった。柿野から、ひろし君の親せきのライトバンに母ちゃんと二人乗って、多治見病院まで行行った。ベットのような車に乗ってレントゲン室へ行き、注射を打ったけど、ぼくはそれからおぼえがなくなってしまった。気がついたら、二階のICUと言う病室にいた。

②病院で

ICUに1週間くらいいて、病室へ行った。そこで脳外科の手当てを受けた。

だいたい傷が治ると、三階の病室に移った。そこは、整形外科だった。

三階へ移るとき、はじめて、母ちゃんが「三階へ移ると、なかなか会えなくなるから。」と言って、病室へ来てぼくと話をした。母ちゃんもけがをして、ぼくと同じ病院に入院していたのだ。

裏山がくずれて家が流されたこと、小原村のこと、ぼくのけがのこと、母ちゃんのけがのことなど、色々話をした。三階へ移って、7月31日に手の手術をした。

8月3日、はじめて、兄と妹、おばあさん二人の家族四人が死んだことを知らされた。お父さんが言おうとしたが、お父さんは泣けて言えなかった。だから、ついてきた人が、かわりに悲しそうに話してくれた。ぼくは、とても悲しかった。それより前までは、兄さんや妹のことを何度聞いても、けがをして寝ていると言ってるだけで、本当のことを教えてくれなかった。そのわけは、ぼくが力をおとすといけないからだったのだ。

けれど、そう式が近づいたので、はじめて教えてくれたのだと思う。

③そう式の日

8月5日、公民館でそう式があった。ぼくは、そう式のために前の日にギブスをまいて病院から帰ってきた。そう式には、大ぜいの人 came。おぼうさんも6人位きた。学校の皆や友だちも来ていた。そう式をしているときは、とても悲しかった。その日は、まだ、家の裏山がくずれた場所へ行かなかったが、遠くから見ると山の頂上からくずれていた。ぼくたちの寝ていた母屋は、かげも形もなくなっていた。ぼくは、「あんな高いところからくずれてきたのか。」と思うと、恐ろしくなった。そして、助かったのが不思議なくらいに思えた。

④ふたたび病院へ

そう式がすんで、再び病院へ戻った。

手の手術をしてから、一ヵ月ほどして骨がつくと、リハビリの風呂や、訓練室へ行った。それでも手が動かないので、金具ぬきの手術をしてもらった。その傷が治っても、まだまだ動かないので、きょうせいといって、全身ますいをかけて、曲げ伸ばしをしてもらった。それから、三週間ぐらいは、うでがはれて痛かったが、少しは手が動くようになったので、勉強がおくれるといけないから退院した。

入院してから退院するまで、四ヶ月もかかった。入院している間に、先生やみんなに見舞いに来てもらったり、手紙や千羽づるをもらって、本当にうれしかった。病院のなかでは、入院している人たちにも親切にもらった。退院してからも一週間に2回くらいリハビリに行っている。

⑤終わりに

災害の日、おじいさんは仕事に、お父さんは会社に行ってて助かった。お母さんやぼくは、運がよくて助かった。

それで、お父さんやお母さんは、「もっと勉強して、いい学校にはいれ。」と言っているから、ぼくは、兄や妹のぶんまでがんばろうと思う。

家は流れてしまい、一度に、兄、妹、二人のおばあちゃんの四人も亡くなったので、とても悲しいけど、悲しさに負けないで、明るく強い子になりたいと思う。それから、ぼくの家だけでなく、ほかにも小原村の中に被害を受けた人がたくさんいる。そういう人たちにも、元気を出してがんばって欲しいと思う。小原村も一日も早く、元のようになってほしい。そして、二度とこんな悲しい災害が起きないように願わずにはいられない。

(道慈小学校 「道慈の子」災害記録より)

「集 中 豪 雨」

福原小学校 6年 三宅 浩幸

7月12日は、ぼくたちの保護者会だった。昼間のうちは、あまり降っていなかった雨も、夜に入りだんだん雨量を増し、午後10時を過ぎるころから大きな音をたてて、とても強く降り出した。そして、午前1時から2時にかけて雨はますます強くなり、一時はバケツに水をくんでぶちあけるような音がした。

その音におどろき、思わず立ち上がり、あたりを歩き回ってみたが、どうすることもできず、また、ベットに入った。そして、しばらくして目をさましたのは、午前4時ごろだった。

あたりは、まだうす暗かったが、となり近所の人たちが集まってきたので、ぼくも起きた。あたりをよく見ると、村道はズタズタに切れてどうすることもできなくなっていた。田畑も土手がくずれ、土砂にうまっていた。自分の家をよく見たら、庭が水びたしになり、はき物が浮いていた。裏山も少しくずれたけれど、家には入らずまだ良かった。

あちこちを見まわしていたら午前7時ごろ、三ツ久保の方から足早に歩いてくる人があった。それは、三ツ久保のお寺の山田さんだった。話をよく聞いてみると、三久保の梅村善松さんの家が土砂でつぶれ、善松さん夫婦が家の下じきになり、亡くなったと聞きびっくりした。それから、ラジオのスイッチを入れると、小原村のニュースをさかんにやっていた。ニュースを聞いてると、小（こむれ）地区の人々79名全員が行方不明との放送があり、また、

びっくりしたが、その様子をだれかに聞くこともできず、この道では行くこともできず心配していた。お父さんたちは、まず道の開通に一生けん命だった。あまりのひどさに学校も休校となったので、あちこち見てまわった。小（こむれ）地区の放送は、しばらくたってから、まちがいだということがわかった。どこを見ても土砂くずれ。そして、川の近くでは、何かから何まで押し流されていた。時間が過ぎるにつれて、あちこちの話を聞いた。不幸にして多くの人が亡くなり怪我をした人も多いようだ。

雨がすっかり上がり、よく晴れた空にヘリコプターが飛んでいた。怪我をした人を運んだり、各地からの救えん物資などを運ぶためだった。村内の人々はもちろん、自衛隊の人々も復旧作業に一生けん命だった。

復旧作業が進み県道が開通した。村始まって以来の災害は、人々の注意が足りなかったこともあるかもしれないが、もっとも大きな災害になった。

一日も早く、もとの小原村にもどり、明るい生活ができるようになってほしいものである。そして、もう二度とこんなことが起きないようにしたいと思う。

（福原小学校 「豪雨の記録」より）

「集 中 豪 雨」

清原小学校 5年 久名木 浩志

それは、考えても見ないことだった。

家はつぶれ、道はふさがりイネも山もぐちゃぐちゃ。遊屋の損害はわりあい少なかった。下仁木その他の所はすごい損害だった。

前の夜、すごい雨だった。ふとんにはいって明日はどうなるだろう。そう思いながら寝た。3時20分ごろ、下の道で、がやがや声がしていたので目があいてしまった。もう、家族全員が起きていた。電気がつかない。テレビもつかない。停電だ。ローソクをともした。暗やみの中でローソクの火が赤々と燃えていた。みんなが、「ちょっと見てくる。」と言い、出かけていった。耳をかたむけて聞いていると、「下仁木の方がひどいげえな。」と言っていた。けんこう君の家がつぶれたと聞いてびっくりした。ぼくもなんだかこわくなって、下へ行った。皆が話しているところへ、校長先生、大島先生が来られた。下仁木に行ってみた。やっぱり、下仁木はひどかった。遊屋のなん十倍もひどかった。

帰ってきたら、もう午後になった。3時ごろ、百合子さんの家のおばあさんが「大雨けい

ほうが出たげなで、まっちゃんとかへ、ひなんしろと命令がでたげえな。」と言ったので、荷物をまとめて、まっちゃんとかへ行った。夕ごはんは、おにぎりだった。だが、そこもあぶなかったの、ほくと、みどりさん、百合ちゃん一家が母子センターへ行った。どこもかも満員だった。そこには、よりゆき君もいた。遊屋のことが心配で眠れなかった。寝るまで、まさかず君たち4人とトランプをした。帰ってきて、どうもなかったの、安心した。次の朝から、ヘリコプターの上がり下がりのはげしい。救えん物資を運んできた。けが人も運んでいる。始めのうちヘリコプターがめずらしく、走って見に行った。

小原村だけで、死者31人。行方不明者1人ということらしい。

もう、こんなことはこりごりだと思った。

(災害記録「すずかけ」より)

「集 中 豪 雨」

本城小学校 5年 酒井 正治

7月12日の夜の事です。

11時ごろから、1時にかけて大雨が降りました。雨の音のはげしいので、1時ごろ目がさめました。少ししたら兄ちゃんが「にげるぞ。」と言った。

にげる用意をして、外へ出た。青白いいなびかりとともに雨のはげしい音がしてきた。耳がつぶれるほど大きな音だ。下にあったライトバンの中に入った。

そして、かず君とこの前の広場へ行った。こんどは、よその人が、あかちゃんをつれてきて「すいません。中へ入れてください。」と言ってきた。

みほちゃんとかの家へおいでんと言ったので、行ったら、たくさんの人がいた。そこで、夜もねないで起きていた。やがて、朝がきてあたりを見回した。どこも気がくるったようにあれはて、どこの家も被害にあっていた。1けんつぶれた家が目に入った。死んでしまっただろうか。

家に帰ろうとしてもまだ雨がふっていて、「ぬけてくる心配があるから帰っちゃあいかん。」と言ったので、下の家に行った。午前10時になっても水は出ず、電気もこない。店へ行く道は、土砂でうまっている。おばあちゃんが買っておいだネジネジ菓子を、みんなで分けて食べた。

雨がやんでも家へは帰れない。腹がへった。まるで、地ごくへ行ったような気持ちだ。も

うぜったいに、こんな悲しいことは起こらないでほしい。

(災害記録文集「しろやま」より)

「水 は 悪 魔」

小原中学校 2年 加藤 由美子

7月12日から13日にかけての恐ろしさは、今でもはっきり心に残っている。

「ゴロゴロゴロ！」雷だ。12日の夜、私は祖父、祖母、母そして弟と四人で奥の間で寝ていた。また、「ピカッ」「ゴロゴロゴロ！」私はふとんの中に入っても、雷の音でなかなか寝むれなかった。でも、いつのまにか寝てしまったらしい。「ドスン！」私は、はっと目がさめた。どうしたんだろうと思って、祖母と二人で、電気のひもを引っばったがつかない。こんな時に自動的につく電気があったらなあと思った。しかたなく、懐中電灯を持って外にでた。雨がバケツでぶちやけられたように降り続いている。雷もゴロゴロとうなっている。かどの方は、何ともないが、裏山がぬけていた。私は、息がつまりそうだった。祖母は、「土が家の中に入っていないから、もう寝るよ。」と言った。私は、胸がドキドキして、寝床にはいったが寝むれなかった。「リリリーン、リリリーン」夜中の2時ごろ、今ごろどこからだろう。祖父が電話にでたら、役場からで、被害状況を知らせてくれということだった。父がいたら、大平や荷掛にかけろけど、夜勤で家にいなかったんで、祖父がかけた。「ドッシン、ドッシン！」2回目の音は、すごく大きくて寝ていた弟も飛び起きた。急いで庭に降りると、「ひやー、冷たい。」思わず声が出てしまった。20センチほど水がついていたのだ。こんどは、裏をのぞいたら、台所に少し土がはいっていた。でも、祖父は、「心配してもしかたがないから、もう寝るぞ。」と言ったが、私はこんなに息がつまりそうなのに、よくもまあ、そんなことが言えるなあと思われて、祖父の頭に一発くらわしてやりたかった。

次の日の朝、たしか5時ごろだった。幸ちゃんのお母さんが、あわてて走って来た。私が、「どうしたの。」と聞いたら、「田んぼが、つぶれておるよ。」と、息をつまらせて言った。私は、どんなふうになっているのかと、好奇心があったのか、そこが見たくって、服に着がえて、前の道に出た。私は、腰がぬけてしまいそうで、目をまるくして見ていた。それは、道がぬけて通れないし、田んぼが、数えきれないほどつぶれている。大平へも篠平へも行けなくなってしまった。寺平は、孤立状態になってしまったのだ。私はその時に思った。「水がにくい。」

消防の人に出会った。その人たちは、大平に行く途中だった。どうしてなのか聞いたら、永井孝徳君の家が流され、家族4人が流されたそうだ。私は、孝徳君は大丈夫かなあと心配だった。

昼、12時ころ、ズボンもくつも泥だらけになった父が帰って来た。父は、ガソリンスタンドに自動車を置いて、小学校の先生方といっしょに歩いて来たのだった。篠平も、田や家が流されていたそうだ。2時ころ、ヘリコプターが空から状況を見ていた。いろいろな救援物資も降ろして行った。私は、その日から、ヘリコプターが待ち遠しくなった。

豪雨から2日目、よい天気だった。私は、早くヘリコプターが来ないかなあと思った。でも、悲しいことがあった。大平の孝徳君が亡くなったことだ。

水のために、こんなにたくさんの犠牲者を出した。私は、水が悪魔のようににくい。そして、こわい。今まで、この小原村が一番平和だと信じきっていたのに。もうあんな集中豪雨が来たらぶっとばしてやりたいぐらい。32人もの人を殺した豪雨なんか。

私は今思う。この村は、集中豪雨でたくさんの人が亡くなったことは、とてもくやしい。でも、小原村は、そんなことでは負けてはいけない。この先、10年後、20年後にも大きな障害があるかもしれない。そのために、村長さんたちといっしょに、明るい豊かな小原を築いていこう。

(47・7 豪雨災害文集「叫び」より)

「47. 7 豪 雨」

小原中学校築平分校 2年 成瀬 富貴子

7月13日、午前1時半。

「泰隆君が生き埋めになったー。」と言う声に目をさました。父はすぐに救出に出かけました。

その直後、雷のような大きな音がして、私の家は影も形もなくなってしまいました。そして、気がついたとき、あたりはまっ暗でした。体は身動きできず、左手を動かすことが精いっぱいでした。その時です。姉の「フッコ、フッコ。」と呼ぶ声を耳にしました。それで近くに姉がいることがわかり、「ここにおるよ。私の上に姉ちゃんがおるみたい。」と姉に返事をしました。しかし、母の声はしませんでした。姉と二人で、「お母さん、お母さん。」と呼び続けました。やっと母の声がしました。しかし、その声は苦しそうに「ミッコ、フッコ。生きとるかーあ。」とありったけの力を出して言っているように聞こえました。そ

れからあとは、「苦しい、苦しい。」としか聞こえません。

姉は必死で歌をうたって、私と母を勇気づけてくれました。姉も苦しかったにちがいません。それなのに、「フッコ。どんな歌がいい。」と言い、私がリクエストした歌を、そのまま歌ってくれました。もちろん、私もいっしょにうたいました。そのとき、私は、「やっぱり、姉だけある。」と思いました。

それから、間もなく母と姉が救出されたことを知りました。その瞬間、よかったと思うのと同時に私だけは、だめなのかなあ。と思うと気が遠くなる思いでした。そのうち呼吸が困難になりビニールホースを入れてもらいました。でも長くやっていると、よけいに苦しくなるようなので、指1本がやっとはいるくらいの穴から、うちわで、風を通してくれました。それでも、ますます苦しくなるばかりなので、もう本当にだめかと思いました。しかし、父をはじめ、近所の人たちが声をからしてまで、「フッコ、大丈夫かー。」と呼びつけながら、必死で私のために救出作業をしてくれていると思うと、私も必死でがんばりました。すると、突然に、木の間から懐中電灯の光が見えました。そのときはほんとうに、「今までがんばってよかった。これなら絶対に助かる。」と思いました。でも電気が見えてからというもの、父たちの声がするだけで、作業は進んでないようでした。それから少したつてようやく木や畳を切る音。そんなことが30分くらい続いたでしょう。そしてようやく、父の顔が見えました。自分がほんとうに助かったと思うと、今まで以上に母や姉、それから祖母のことが心配になってきました。私は一人で外に出ようと思いましたが、簡単に出られません。なにしろ、木や畳ではさまれているのですから、それから、1時間くらいでしょうか、ようやく下半身がでました。それから父によばれて公民館に行きました。もう一度父の顔を、しっかり見ました。父の顔にもドロがこびりついていました。また、母と姉の方を見ました。母の顔は、まっ青ですし、姉は、何かうわ言を言っていました。私も女の人たちに着物をかえてもらおうとしましたが、脱ぐこともできず、ハサミで切ってかえてもらいました。あれから、ここに来るまでちょうど5時間、とても長い時間でした。

それから、医者とヘリコプターが来ると聞きましたが、12時になってもまだ来ません。待っている間、近所の人たちが、ジュースやアイスクリームを食べさせてくれました。食べている間は、気がつきませんでした。母の声をしっかり聞いてみると、「腕がない。苦しい。」とばかり言っていました。近所の人が、「そんなことないよ。ちゃんと腕はある。」と言っても、信じません。傷のほうひどくて、しびれていたんでしょう。

午後5時。ようやくヘリコプターがきましたが、場所が狭くて、降りる所がありません。降りるまでに1時間くらいは、かかったそうです。私たち3人は、戸板に寄せられ、ヘリコプターの所まで運ばれましたが、その途中、道はたおれた家や、土砂くずれで、安心して通れませんか、田畑は、もちろんだめです。しかたなく人間が通るのが精いっぱい道を作っ

て運んだそうです。そして、午後8時、ようやく病院に着きました。

今まで、九州などで雨のための被害のあった人々を、テレビや新聞で見ましたが、自分がこんなめにあって、そんな人たちのことがよくわかりました。

私はとても貴重な体験をしたと言えるでしょう。

(昭47・7豪雨災害の記録より)

「激甚災害に憶う」

小原村助役 小野田 薫

未曾有の集中豪雨に、村が押し潰されてから2ヶ月近くたった。

30余名の尊い犠牲者の合同慰霊祭と初盆も新たな悲しみの中にすぎて、見舞いに役場に訪れる人も日毎に少なくなり、村は落ちつきを取りもどし復興に立ち上がっている。

この大災害で、役場職員も1名の犠牲者を出した。目を閉じて当時を憶えば余りの惨害に悲しみが先立って、胸はつまるばかりである。

5千名の村民が何万という村外からの人たちの直接の温かい救援に支え助けられたことは、村史に永久に残る同胞愛の記録として、感謝に堪えないところである。と同時にこの災害で50余名の役場職員男女の涙ぐましい活躍に対しても感謝せずにはいられない。

文字どおり寝食を忘れ、一人一人は声を出しつくし、足を運びつくし全力を傾け尽くした。目はくぼみ、相は変わり、尚も必死になって、この混乱を切り抜けてくれた。職員の疲労は極度に達した。私は、この混乱の中で職員が倒れることに異常な不安と、あせりに襲われたがどうしてやるすべもなかった。家を失った職員、家族が負傷で臥せっている職員、親を失った職員。全職員が、私事を後にして、役場に立てこもって頑張り抜いてくれた。

窓口につめかけた住民は、惨状に不安の余り、理性を失わんばかりの言動に出る者さえもあったが、じっとこらえて持ち場を守り、対処してくれたのも職員であった。遠くから慰めと激励に混雑の役場窓口を訪れてくれたN市、M小学校の児童があった。「一生けんめい頑張ってください。」と言ってクラスで集めた義援金を届けてくださったのである。私は、声が詰まってお礼の言葉がでなかった。黙って頭を下げ、このお金を受け取った。この子は、おどけたように私の顔を見ながら、一緒に来た先生のそばにくっつくようにして出ていってしまった。私の生涯忘れることのできない感激である。

初盆がすんで夜の涼しさが肌をとおしてくる。静かな星のひかりが傷ついた山の頂き一ぱいにひろがって、激甚災害の村はすっかり寝静まった。

今日も役場全職員は、力を合わせ復興作業に全力を傾けてくれた。
そして明日も。

——災害は忘れぬうちに又やってくるかもしれない——

(昭和47年9月発行 広報おばらより)

(作品は、当時の小中学校の児童生徒の記録文集等の中から抜粋し掲載をしました。誤字等の修正以外は、原文を掲載しています。)

資料編

●村災害復旧費の推移(一般会計決算より)

(単位:円)

	項	予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額	予算現額と支出済額との比較
昭和46年度		1,009,000円	881,985円	円	127,015円	△ 127,015円
	1. 土木施設災害復旧費	1,003,000	881,985		121,015	△ 121,015
	2. 農林水産施設災害復旧費	6,000	0		6,000	△ 6,000
昭和47年度		1,301,462,000	1,234,858,879	55,000,000	11,603,121	△ 11,603,121
	1. 公共土木施設災害復旧費	1,021,429,000	1,018,871,498	0	2,557,502	△ 2,557,502
	2. 農林水産施設災害復旧費	219,155,000	155,568,596	55,000,000	8,586,404	△ 8,586,404
	3. 文教施設災害復旧費	60,878,000	60,418,785	0	459,215	△ 459,215
昭和48年度		1,996,139,000	1,249,006,640	739,478,000	7,654,360	△ 7,654,360
	1. 公共土木施設災害復旧費	1,368,497,000	902,306,814	462,978,000	3,212,186	△ 3,212,186
	2. 農林水産施設災害復旧費	626,532,000	345,612,826	276,500,000	4,419,174	△ 4,419,174
	3. 農地等小災害復旧費	1,110,000	1,087,000		23,000	△ 23,000
昭和49年度		1,988,461,000	1,939,949,424	33,000,000	15,511,576	△ 15,511,576
	1. 公共土木施設災害復旧費	1,153,110,764	1,105,482,001	33,000,000	14,628,763	△ 14,628,763
	2. 農林水産施設災害復旧費	835,350,236	834,467,423	0	882,813	△ 882,813
	3. 農地等小災害復旧費	0	0	0	0	0
昭和50年度		291,368,000	286,609,080	0	4,758,920	△ 4,758,920
	1. 公共土木施設災害復旧費	161,628,000	158,171,067	0	3,456,933	△ 3,456,933
	2. 農林水産施設災害復旧費	129,740,000	128,438,013	0	1,301,987	△ 1,301,987
	3. 農地等小災害復旧費	0	0	0	0	△ 0
昭和51年度		108,221,000	106,694,323	0	1,526,677	△ 1,526,677
	1. 公共土木施設災害復旧費	70,789,000	70,112,816	0	676,184	△ 676,184
	2. 農林水産施設災害復旧費	37,432,000	36,581,507	0	850,493	△ 850,493
	3. 農地等小災害復旧費	0	0	0	0	0
昭和52年度		47,158,000	46,022,556	0	1,135,444	△ 1,135,444
	1. 公共土木施設災害復旧費	37,801,000	37,125,952	0	675,048	△ 675,048
	2. 農林水産施設災害復旧費	9,357,000	8,896,604	0	460,396	△ 460,396
	3. 農地等小災害復旧費	0	0	0	0	0
昭和53年度		8,741,000	8,633,387	0	107,613	△ 107,613
	1. 公共土木施設災害復旧費	8,677,000	8,596,280	0	80,720	△ 80,720
	2. 農林水産施設災害復旧費	64,000	37,107	0	26,893	△ 26,893
	3. 農地等小災害復旧費	0	0	0	0	0
昭和54年度	災害救助費	9,000	0	0	9,000	△ 9,000
昭和55年度	災害救助費	9,000	0	0	9,000	△ 9,000

●昭和47年発生公共土木施設災害復旧事業一覧表 村工事(国庫負担率0.998)

(単位:千円)

種 別	被 害		決 定		竣 功		摘 要
	箇所数	金 額	箇所数	金 額	箇所数	金 額	
河 川	117	2,599,265	117	2,206,375	117	2,209,476	
道 路	302	668,616	302	604,227	302	629,844	
橋 梁	17	48,539	17	59,851	17	64,605	
計 A	436	3,316,420	436	2,870,453	436	2,903,925	
事務費 B				73,007		73,007	
事業費計 A+B=C				2,943,460		2,976,932	(国庫負担金) ×0.998=2,970,79千円

●県工事(国庫負担率0.667)

(単位:千円)

種 別	47 年 度		48 年 度		49 年 度		合 計	
	箇所数	金 額	箇所数	金 額	箇所数	金 額	箇所数	金 額
河 川	13	548,566	15	1,230,064	22	1,481,204	50	3,259,834
道 路	179	119,046	159	352,071	53	220,259	391	691,376
橋 梁	8	40,998	4	25,295	2	19,870	14	86,164
計 A	200	708,610	178	1,607,430	77	1,721,333	455	4,037,374
事務費 B		15,176		34,425		36,865		86,466
事業費計 A+B=C		723,786		1,641,855		1,758,198		4,123,840

●県委託工事年度別一覧表

(単位:千円)

47 年 度		48 年 度		49 年 度		計	
箇所	金 額	箇所	金 額	箇所	金 額	箇所	金 額
107	951,294	178	1,206,337	88	577,374	373	2,735,005

●河川災害関連事業一覧表(村工事)

(単位:千円)

河 川 名	場 所	事 業 費			47 年 度	48 年 度	49 年 度
		全 体	災 害 費	改 良 費			
荷 掛 川	荷 掛	114,729	62,045	52,684	75,222	39,507	—
丹 波 川	西 丹 波	126,120	74,759	51,363	—	53,706	72,414
李 川	鍛冶屋敷	28,045	13,880	14,165	28,045	—	—
計 3 河 川		268,894	150,682	118,212	103,267	93,213	72,414

●河川災害関連事業一覧表(県工事)

(単位:千円)

河 川 名	場 所	事 業 費			47 年 度	48 年 度	49 年 度
		全 体	災 害 費	改 良 費			
李 川	李	174,216	98,605	75,611	—	67,325	106,891

●砂防災害関連事業一覧表(県工事)

(単位:千円)

河 川 名	場 所	事 業 費			47 年 度	48 年 度	49 年 度
		全 体	災 害 費	改 良 費			
大 平 川	大 平	80,206	48,039	32,167	27,56	33,459	19,181

●47年災農地・農業用施設災害復旧事業一覧表

(単位:千円)

工 種	被 害		査 定		変 更 後 事業費	47 年 度		48 年 度		49 年 度		50 年 度		摘 要
	件数	事業費	件数	事業費		進度 %	事業費	進度 %	事業費	進度 %	事業費	進度 %	事業費	
農地	437	401,080	440	366,104	414,674	13	54,456	34	86,413	97	259,344	100	14,461	補助率95.9
施設	539	756,450	534	637,338	773,894	7	56,921	32	198,324	97	497,559	100	21,090	// 99.0
計	976	1,157,530	974	1,003,442	1,188,568	10	111,377	33	284,737	97	756,903	100	35,551	

●47年災 公共土木施設災害復旧事業(村工事) 一覧表

●47年度

(自 47年4月)
(至 48年3月)(単位:千円)

種 別	決 定		実 施 設 計		竣 功		摘 功
	箇所数	金 額	箇所数	金 額	箇所数	金 額	
河 川	36	842,911	36	873,779	36	839,893	(国庫負担金) ×0.998=1,009,027千円
道 路	99	153,416	99	146,202	99	144,343	
橋 梁	3	1,330	3	1,345	3	1,330	
計 A	138	997,657	138	1,021,326	138	985,566	
事 務 費 B		25,484				25,484	
事業費計A+B=C		1,023,141				1,011,050	

●48年度

(自 48年4月)
(至 49年3月)(単位:千円)

種 別	決 定		実 施 設 計		竣 功		摘 要
	箇所数	金 額	箇所数	金 額	箇所数	金 額	
河 川	33	269,842	33	256,186	33	267,677	(国庫負担金) ×0.998=479,096千円
道 路	109	164,823	109	175,720	109	181,459	
橋 梁	4	17,347	4	18,533	4	19,168	
計 A	146	452,012	146	450,439	146	468,304	
事 務 費 B		11,752				11,752	
事業費計A+B=C		463,764				480,056	

●48年度(繰越施行分)

(単位:千円)

種 別	決 定		実 施 設 計		竣 功		摘 要
	箇所数	金 額	箇所数	金 額	箇所数	金 額	
河 川	19	659,408	19	657,675	19	666,540	(国庫負担金) ×0.998=849,595千円
道 路	31	138,247	31	148,542	31	154,079	
橋 梁	2	8,845	2	10,789	2	11,112	
計 A	52	806,500	52	817,006	52	831,731	
事 務 費 B		19,567				19,567	
事業費計A+B=C		826,067				851,298	

●49年度

(自 49年4月)
(至 50年6月)(単位:千円)

種 別	決 定(再調)		実 施 設 計		竣 功		摘 要
	箇所数	金 額	箇所数	金 額	箇所数	金 額	
河 川	29	434,214	29	495,027	29	435,366	(国庫負担金) ×0.998=633,259千円
道 路	63	147,741	63	150,470	63	149,963	
橋 梁	8	32,329	8	33,207	8	32,995	
計 A	100	614,284	100	678,704	100	618,324	
事 務 費 B		16,204				16,204	
事業費計A+B=C		630,488				634,528	

●小原村集落整備調書

地区名 区 分		平 畑			喜 佐 平		
		棟 数	世 帯 数	人 員	棟 数	世 帯 数	人 員
被 害 状 況	部落全戸数	22 棟	22 戸	91 人	14 棟	14 戸	54 人
	全 壊	9	9	35	14	4	16
	半 壊	3	3	9	3	3	15
	床上浸水	7	7	32	7	7	24
	床下浸水						
	死 者			7			
	重 傷 者			3			1
	軽 傷 者			7			
集 落 整 備	移 転 戸 数	20(他豊田市2)	20(他豊田市2)	91	9	9	35
	造成面積	宅 地	広場・道路等	計	宅 地	広場・道路等	計
		7,951.0㎡	5,513.0㎡	13,464.0㎡	3,543.5㎡	1,473.5㎡	5,017.0㎡
	施 設 整 備	し尿処理施設(合併) 広 場 共同作業所 防火施設 給水施設			し尿処理施設 広 場 生活污水处理施設 給水施設 (共同作業所)		
	工 期	昭和48年度～昭和49年度			昭和48年度～昭和49年度		
	事 業 費	105,094千円			74,032千円		
農 地 整 備	ほ 場 整 備	事業量 2.9 ha	事業費 32,230千円		事業量 2.1 ha 橋梁1ヵ所	事業費 20,000千円	
	災 害 復 旧				事業量 2.5 ha	事業費 23,900千円	
	計	事業量 2.9 ha	事業費 32,230千円		事業量 4.6 ha 橋梁1ヵ所	事業費 43,900千円	
総 事 業 費		137,324千円			117,932千円		

●文教・社会教育施設復旧事業一覧表

事 業 箇 所	概 要	被害金額	復興金額
福 原 小 学 校	崩壊—運動場土手、校舍裏土手、職員寮裏山 建物—職員寮便所全壊、ひさし半壊	1,276 ^{千円}	743 ^{千円}
清 原 小 学 校	崩壊—給食室裏山、運動場土手、校門前土手 建具・器具—給食室裏壁、建具、石油バーナー、滅菌器	3,366	2,022
本 城 小 学 校	崩壊—給食室・職員住宅裏土手、運動場土手、排水管欠損	713	283
小 原 村 学 校 給食センター	崩壊—裏山、表擁壁 (復興金額は、前面法留工を除く額)	6,083	277
村民運動広場	崩壊—西土手擁壁、観覧席土手、北隅土手	18,707	19,130
大 洞 公 民 館	全壊流失 (木造平屋建 133㎡)	8,035	12,956
東市野々公民館	全壊流失 (木造平屋建 36㎡)	2,334	12,163
大ヶ蔵連公民館	半 壊 (木造平屋建 93㎡)	5,524	12,377

●治山事業費実績一覧表

事業名		46年度		47年度		48年度		49年度		50年度	
		件数	工事費	件数	工事費	件数	工事費	件数	工事費	件数	工事費
公共治山	復旧治山	1	12,544	26	204,806	10	160,850	7	58,934	9	101,695
	予防治山	1	4,494	3	17,899						
	保育							1	165		
	小計	2	17,038	29	222,705	10	160,850	8	59,099	9	101,695
単県治山	小規模治山	9	16,759	14	30,895	33	70,536	27	61,380	16	32,109
	緊急防災治山	1	1,509			3	9,579	3	6,085		
	緊急小規模治山対策										
	小計	10	18,268	14	30,895	36	80,115	30	67,465	16	32,109
合計		12	35,306	43	253,600	46	240,965	38	126,564	24	133,804

51年度		52年度		53年度		54年度		55年度		56年度	
10	131,771	9	127,732	9	157,291	6	143,417	7	191,537	8	197,479
								1	23,927	1	25,600
2	245	2	708	4	1,210	6	1,480	4	1,430	2	1,310
12	132,016	11	128,440	13	158,501	11	144,897	12	216,894	11	226,510
12	29,753	8	20,991	8	28,988	6	24,163	12	38,635	11	50,300
		4	12,748			6	17,254	8	19,965		
12	29,753	12	33,739	8	28,988	12	41,417	20	58,600		
24	161,769	23	162,179	21	187,489	23	186,314	32	275,494		

●林道災害復旧事業一覧表（県委託工事）（国庫補助率93.8%）

総被害額			全体計画			昭和47年度実績			昭和48年度実績			昭和49年度実績			廃工		
路線数	延長	金額	路線数	延長	事業費	路線数	延長	事業費	路線数	延長	事業所	路線数	延長	事業費	路線数	延長	事業費
箇所数			箇所数		査定	箇所数		査定	箇所数		査定	箇所数		査定	箇所数		査定
19	m	千円	15	m	千円	4	m	千円	4	m	千円	6	m	千円	1	m	千円
					85,638			26,730			39,362			17,024			2,522
	5,482	109,660	58	2,873	73,438	22	1,018	25,668	15	1,286	32,280	17	458	12,968	4	111	2,522
76			復旧進捗			35%			82%			100%			—		

●消防団出動数

第1分団～第8分団		団員数	330人
出動人員	7月13日～30日	約2,785人（延人員）	

●災害警備出動警察官数

日	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	計
機動隊	60	136	114	136	114	120	119	96	82	69	32									1,078
常備隊	72	70	70	70	70	35					35	70	70	70	22	22	22	22		768
豊田署	17	30	30	30	30	30	20	20	20	20	20	10	10	10	10	10	10	10	7	344
交通		30		12	12	20	14	14	14	14	7	7	7	7						165
検視	15	14	14	4	2	2	5	5	2	2	2	2	2	2						75
他	10	20	10	10	12	12	12	12	12	15	11	14	14	12	5	5	5	5		206
計	174	300	238	262	240	219	170	147	133	120	107	103	103	101	37	37	37	37	7	2,636

●災害派遣自衛隊活動状況

区分 月日	人 員	車 両								ヘリ コプ タ等	ボ ー ト	そ の 他 機 材	備 考
		計	ブルド ーザー	レッカ ー車	トラク ター	クレン 車	炊事ト レーラ	給水車	トラッ ク等				
7月13日	883 (60)	150	1	1	1			16	131	9 (5)	5	浄水セッ ト2 人浴セッ ト25 通信機材	ヘリコプター 11回
14	1,091 (60)	159	1	1	1			16	140	17 (5)	5	〃	〃 86回
15	1,182	112	1	1	1			16	93	11 (5)	5	〃	〃
16	1,200 (60)	114	1	1	1			16	95	9 (5)	5	〃	ヘリコプター 61回
17	1,054	104	1	1	1			12	89	11 (5)	5	〃	〃 26回
18	1,050	114	1	1	3			11	98	11 (5)	5	人浴セッ ト2 通信機材 25	〃 25回
19	1,241 (60)	165	1	1	3			10	150	9 (5)	5	人浴セッ ト3 通信機材 25	〃 41回
20	1,090	134	3	1	3			11	116	4	5	〃	〃 29回 航空自衛隊搬 送要品
21	908	121	3	2		1	5	11	99	2	5	〃	ヘリコプター 9回
22	1,046	127	3	3			5		116	2	6	〃	〃 11回
23	937	146	3	3			5		135	2	3	人浴セッ ト2 通信機材 25	〃 1回
24	817	146	3	3			5		135	1	3	〃	

空輸活動

患者輸送人員	16名	偵察人員数	15名
物資輸送量	20.6 t	輸送人員数	33名
給 水 量	5.1 t	輸送支援延人員	124名

遺体搜索活動

搜索地域総面積	約 136万m ²	搜索従事延人数	4,693名
河川流域延キロ数(矢作川も含む)	29km	遺体収容数	8体

防疫活動

実施戸数	1,230戸	支援延人員	265人	輸送延車両数	50両
------	--------	-------	------	--------	-----

通信活動

部隊専用回線の部外機関の利用		延使用回数	200通話
有線通信の確保	構 成 地 区	小原役場 ～ 西細田 ～ 平畑	
	構 成 キ ロ 数	8 km	

入浴支援

入浴場の開設	7月15日～23日	機動隊員等の利用延数	120名
一般住民の利用数(延)	40名	自衛隊利用	2,500名

●豊田加茂医師会・日本赤十字社

医師6人	看護婦78人	X線技師6人	事務者12人
------	--------	--------	--------

●中部電力

出動人員	7月13日～18日	952人(延人員)
------	-----------	-----------

●電電公社

出動人員	7月13日～21日	約1,270人(延人員)
------	-----------	--------------

●各地による救援活動状況

区 名	大字名	救援延日数	延 人 員	活 動 内 容
大平区	大 平	7. 13～8. 15 (34日)	2,078	・ 負傷者救助 ・ 行方不明者搜索
	荷 掛	7. 13～8. 15 (34日)	310	
	寺 平	7. 13～7. 31 (19日)	390	
	計	87日	2,778人	
道慈区	乙ヶ林	7. 13～7. 17 (5日)	160	・ 遺体安置 ・ 倒壊家屋整理
	三ツ久保	7. 13～8. 6 (10日)	324	
	大 洞	7. 13～7. 22 (10日)	298	
	千 洗	7. 15～7. 25 (5日)	100	
	計	30日	882人	
西区	沢 田	7. 13～7. 19 (7日)	225	・ 河川応急措置 ・ 道路復旧
	西 萩 平	7. 13～7. 20 (8日)	128	
	北 篠 平	7. 13～7. 30 (18日)	907	
	計	57日	1,410人	
上仁木区	上 仁 木	7. 13～7. 27 (15日)	263	・ 救援物資配給 ・ 消毒薬散布 ・ 炊き出し
	川 見	7. 13～7. 23 (11日)	285	
	小	7. 13～7. 25 (13日)	373	
	東市野々	7. 13～7. 30 (18日)	395	
	計	57日	1,316人	
旭区	大ヶ蔵連	7. 14～7. 31 (18日)	268	・ 被害調査 ・ 神社補強作業
	雑 敷	7. 13～7. 20 (8日)	79	
	前 洞	7. 13～7. 22 (10日)	198	
	柏ヶ洞	7. 13～7. 21 (9日)	133	
	計		678	
高原区	田 代	7. 13～7. 17 (5日)	192	・ 流入土砂除去 ・ 住宅応急修理
	北	7. 14～7. 19 (6日)	217	
	計	11日	409人	
中区	北 大 野	7. 13～7. 22 (7日)	29	・ 倒壊公民館整理 ・ 仮設住宅組立
	大 倉	7. 13～7. 23 (11日)	88	
	永 太 郎	7. 13～8. 5 (24日)	94	
	松 名	7. 13～7. 20 (7日)	80	
	計	49日	291人	
東区	宮 代	7. 13～7. 24 (12日)	288	
	苅 萱	7. 14～7. 31 (18日)	180	
	平 岩	7. 13～7. 21 (9日)	180	
	西 丹 波	7. 13～8. 10 (29日)	380	
	岩 下	7. 13～7. 22 (10日)	77	
	計	78日	1,105人	
栄区	下 仁 木	7. 13～7. 31 (19日)	653	
	遊 屋	7. 13～7. 28 (13日)	109	
	計	32日	762人	
大草区	大 草	7. 13～7. 19 (7日)	438	
	大 坂	7. 13～7. 19 (7日)	310	
	鍛冶屋敷	7. 13～7. 31 (19日)	171	
	李	7. 13～8. 5 (24日)	417	
	計	57日	1,336人	
城東区	市 場	7. 13～8. 5 (19日)	1,028	
	西 細 田	7. 13～7. 31 (19日)	520	
	川 下	7. 13～7. 28 (14日)	186	
	計	52日	1,734人	
矢作区	樽 俣	7. 13～7. 22 (10日)	188	
	平 畑	7. 13～8. 15 (34日)	1,763	
	日 面	7. 13～7. 31 (19日)	299	
	築 平	7. 14～8. 15 (8日)	200	
	百 月	7. 13～7. 23 (11日)	146	
	計	82日	2,596	
総 計		637日	15,297人	

●昭和47年7月豪雨災害3か年復興記録

日 時	時 間	で き ご と
昭和47年7月11日		大雨警報・洪水注意報
12日		大雨警報・洪水注意報
13日		集中豪雨が小原村を襲う 12日21時から13日3時までの短期間に238mm 1時～2時に77mmの降雨量を記録 全村に被害続出 生活機能が麻痺
	1：00	小原村災害対策本部設置
	5：00	自衛隊、県警、医師団の派遣を要請、同日午後それぞれ現地本部設置
	7：30	小原村に災害救助法が適用される
	10：30	緊急小原村議会招集
	16：30	愛知県災害対策現地本部が小原村役場内に設置される（本部長：県民生部長）
14日	8：40	桑原愛知県知事へりで到着 被災地現地視察
	13：35	大洞水神池が決壊
	15：40	県警本部長被災地視察
	20：10	役場付近の停電が復旧
15日	11：00	木村建設大臣被災地視察
16日		配電復旧に中部電力、東海電気24班体制で復旧作業
17日		県防疫班被災地の防疫活動開始
		主要道路の大半が通行復旧
18日		村議会災害対策特別委員会設置
		緊急区長会開催
19日		衆議院災害対策特別委員会現地視察
		村議会全員協議会開催（見舞金、仮設住宅、合同慰霊祭など協議）
20日		災害救助法適用を3日間延長
		県議会文化委員会、農地委員会現地視察
22日		行方不明者の搜索、救助活動を7月25日まで延長
25日		行方不明者の搜索、救助活動を7月27日まで延長
26日		県豊田土木災害復旧工事係小原詰所設置（中央公民館）
28日		陸上自衛隊撤収 藤岡村において両村の撤収式挙行
30日		県警機動隊撤収 藤岡村において両村の撤収式挙行
8月10日		災害犠牲者合同慰霊祭挙行（小原中学校）
13日		林道災害復旧事業査定開始
21日		公共土木災害復旧事業査定開始
9月11日		小原村消防団消防庁長官表彰を受ける
8日		小原村消防団内閣総理大臣表彰を受ける
19日		農地等災害復旧事業査定開始
10月31日		林道災害復旧事業査定終了
11月20日		公共土木災害復旧事業査定終了
12月14日		農地等災害復旧事業査定終了
昭和48年3月20日		災害の記録発刊
4月1日		県豊田農地開発事務所小原詰所設置（青年研修所）
2日		自治省担当官 防災のための集団移転促進事業現地調査（平畑、喜佐平地区）
4月8日		春日井薫氏歌碑除幕（老人憩の家）
7月15日		災害犠牲者慰霊碑除幕（老人憩の家）
昭和50年3月31日		県豊田土木及び県豊田農地開発事務所小原詰所廃止
12月6日		災害復興記念碑除幕（村民運動場）
		：
平成24年7月14日		災害犠牲者慰霊碑・春日井薫氏歌碑移転（小原ふれあい公園）

あれから40年
「これからも伝え継ぐために」
昭和47年7月豪雨災害

発行日 平成24年7月14日

発行者 豊田市

編集 豊田市社会部小原支所

〒470-0592

豊田市小原町上平441-1

TEL 0565-65-2001

FAX 0565-65-3695

E-mail obara-shisyo@city.toyota.aichi.jp